3 【視点３】めあてのもたせ方の工夫（課題解決的な学びの習得）

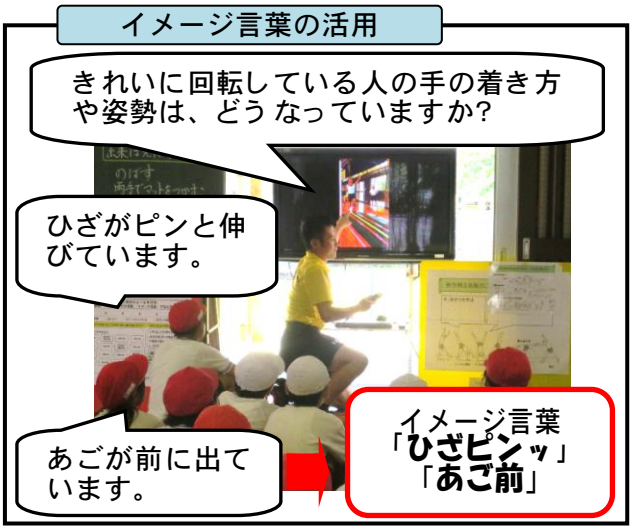
① イメージ言葉（イメージしやすい言葉・音等）の活用
② 発見ボードの活用
③ 学習カードの活用　低学年→教師の提示したものから選択
　　中学年→自分の運動の課題からめあて設定
　　高学年→自分の課題解決のための具体的なめあて設定

第６学年「仲間とつながり、技をつなげるマット運動」（Ｂ 器械運動　ア マット運動）

課題解決的な学びの習得に向けては、児童一人一人が自分のめあてをもって学習に取り組むことが必要であると考え、「イメージ言葉」「発見ボード」「学習カード」を効果的に活用することで、より主体的に学習に取り組めるようにしていった。

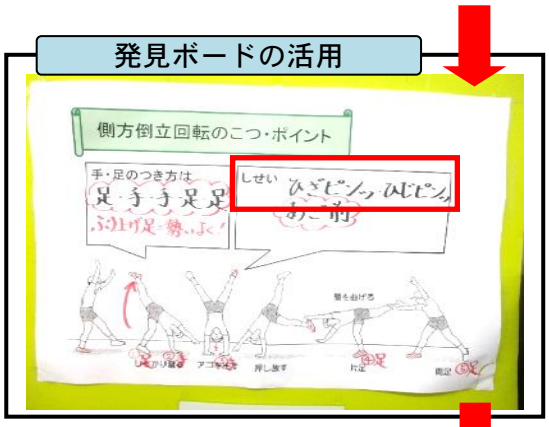
（１）イメージ言葉（イメージしやすい言葉・音等）の活用

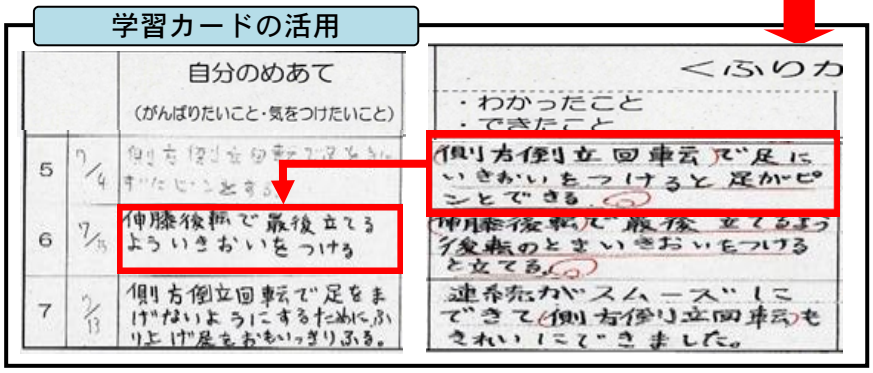
直接的指導場面では、特に「技能のこつやポイント」について、児童が気づいた動きの様子を表す言葉を「イメージ言葉」として学級全体で共有した。６年生のマット運動の授業では、「回転技や倒立技を安定して行うとともに、それらを繰り返したり組み合わせたりすること」について学習した。児童は、体の部位や姿勢を表す言葉で共有し、めあての設定に活用することができた。



（２）発見ボードの活用

児童が直接的指導や練習などで発見した技能のこつやポイントを、「発見ボード」にまとめ、共有した。動きのポイントやよい動きを掲示することで学び合いの中でもその言葉を活用できるようになり、めあてづくりにも活かせた。



（３）学習カードの活用

学習のふり返りでは、「わかったこと・できたこと」に加え、「困っていること・自分の課題」を記入させることで、次時のめあてへつながるようにした。